

各位

日本農産工業株式会社

## 2012年1～3月期の畜産配合飼料価格について

### 畜産配合飼料価格改定額

弊社は、2012年1～3月期の畜産配合飼料価格につきまして以下の飼料原料情勢等に基づき、2011年10～12月期に比較して全国全畜種総平均トン当たり約2,200円値下げすることを決定致しました。なお、改定額は地域別・畜種用途別・銘柄別に異なります。

### 飼料原料・外国為替情勢について

#### 1. 原料(飼料穀物)

直近のシカゴ定期とうもろこし相場は、 $\phi$ 590～620/ブッシェルの範囲で推移しています。11月以降欧州金融不安の影響を受けると共に、東欧産とうもろこしや飼料用小麦へ需要が移行しているとの観測から下落傾向にあります。

今後は、欧州経済の不透明感と飼料用小麦等代替原料の需要動向が相場の頭を抑える一方で、米国内の堅調なエタノール生産が相場を支える材料となり、しばらくは小幅な動きが続くものと見られます。

#### 2. 副原料(植物蛋白原料)

シカゴ定期大豆粕相場は、\$280～320/ショートトンの範囲で推移しています。欧州金融不安に加え、中国の米国産大豆への需要が減速していることが材料となり、相場は下落傾向となっています。1～3月期間渡し条件の大豆粕価格は、相場下落により10～12月期間と比較すると10%以上の大幅値下がりとなる見込みです。

#### 3. 海上運賃

米国ガルフ/日本間パナマックス級本船の運賃は、\$50台後半水準での取引となっています。世界的な大型船舶の需給に逼迫感はありませんが、燃料価格が堅調であることから、運賃相場はおおむね横這い傾向となっています。

#### 4. 外国為替

欧州金融不安により、ユーロ相場が下落基調にある一方で、相対的に安定資産とされるドル円相場は動きにくい地合と見られています。直近のドル円相場は77円～79円/ドルの狭い範囲で小幅な値動きとなっています。